



香港事務所

NCB 海外レポート

香港の“今”：リアルタイムレポート②（観光編）

～そっだ香港に行こう。テクノロジーが拓く「スマート観光」～

◇ はじめに

- ・ コロナ禍以前、香港は年間 6,000 万人前後の訪問客を迎えるアジア有数の観光都市でした。パンデミックにより訪問客数は激減しましたが、近年は回復傾向が続いており、また、観光を取り巻く環境も以前とはやや異なる様相を呈しています。今回は、最近の香港観光事情についてご紹介します。

◇ 賑わいが戻った香港

- ・ 香港への訪問客数は 2018 年に過去最多となる 6,500 万人超を記録したものの、コロナ禍により、2021 年には約 9 万人にまで落ち込みました。以降は回復傾向が続いており、2025 年の訪問客数は 4,990 万人に達しました。
- ・ 香港の主要なテーマパークも賑わいを取り戻しています。香港島南部のオーシャンパークは、動物園・水族館・遊園地が一体となったテーマパークで、2025 年の入場者数は 4 年連続の増となる約 346 万人に上りました。同パークではジャイアントパンダが飼育されており、日々パンダファンの人気を集めています。
- ・ 香港ディズニーランドも観光の回復を象徴するテーマパークです。2024 年度の来園者数は延べ 770 万人、純利益は 8 億 3,800 万香港ドル（約 171 億円）に上り、いずれも 2005 年の開園以来最高を記録しました。



(写真)オーシャンパークのジャイアントパンダの様子
出所：香港駐在員事務所撮影

◇ ビッグデータを活用した「スマート観光」

- ・ こうした中、近年、香港政府は「スマート観光」に注力しています。2024 年末に公表された「香港観光産業発展ブループリント 2.0」では、観光施策の柱の一つとして、電子プラットフォームやビッグデータ、AI 等を活用した「スマート観光」が掲げられました。香港政府観光局の計画では、オンライン観光マップや行程プランナーを通じて、人気観光スポットの混雑状況やイベント情報をリアルタイムで見える化し、円滑な観光をサポートする構想が示されています。
- ・ 実際に、前述のテーマパークにおいても、公式アプリでアトラクションの待ち時間やショーの開始時間、パークマップをリアルタイムで確認できるほか、電子チケットやモバイルオーダーも利用でき、来園前の情報収集から当日の快適な周遊までアプリ 1 つでサポートする仕組みが整っています。
- ・ また、データに基づいて、「この人は何に関心がありそうか」、「次にどこへ行きそうか」といった思考・行動パターンを AI が分析し、混雑状況予測や訪問履歴に応じたルート・スポットのレコメンド等を提供するといった工夫を今後強化していく方向性も示されています。
- ・ こうした「スマート観光」の導入が進むことで、香港の観光は「行ってみないと分からない熱気とワクワクに満ちた」ものから、「自分に合った楽しみ方を自由に選択できる」ものへ、少しずつ姿を変えつつあります。

◇ おわりに

- ・ かつて香港を訪れた方の記憶にある景色はそのまま、香港での観光はテクノロジーの力によって少しずつ快適さを増しています。観光分野で進むビッグデータや AI の活用は、「何人来たか」という“量”だけでなく、「一人ひとりがどんな時間を過ごしたか」という“質”に目を向け始めた動きの一つと言えるのかもしれません。

2026 年 2 月 13 日作成

西日本シティ銀行香港駐在員事務所